

(国語)

自分の思いや考えを表現し、伝え合い学び合う子どもを育てる
～「読む力」を高めるための指導法の工夫～

大阪市立大隅西小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標に「自ら学び 豊かな心をもった たくましい子どもを育てる」を掲げ、めざす子ども像を「しっかり考える子ども」「思いやりのある子ども」「たくましい子ども」の3点とし、その実現に向けて日々の教育活動に取り組んでいる。

H30年度から2年間「特別の教科 道徳」を研究教科とし、研究を進める中で、自分の思いや考えを表現する手段としての言語力の育成に課題があることがわかってきた。また、本校の課題を把握するために、大阪市学力経年調査の結果を分析したところ、国語科の「読む能力」が、大阪市平均よりも低い傾向が見られた。国語科で身に付けられる力は、各教科で言語活動を充実させるための基礎的・基本的な技能である。またそれは、楽しく意欲的に学習に取り組む子どもを育てるうえで、大きな支えになるものである。そこで、一昨年度より、研究教科を国語科とし、研究を進めることにした。

2. 研究の趣旨

今年度も国語科の研究を行うにあたり、研究主題・副題は昨年度のまま引き継いだ。一昨年度からは、本校児童の文章を正しく読む力、文章の構成を捉える力を育成するために、説明的教材に視点を置いて研究を進めた。そして、今年度からは文学的な文章を取り上げ、児童が意欲をもって主体的に取り組める単元設定をさらに工夫していくことにした。授業を構想するにあたっては、目的に応じて読み、そこで得た知識や技能を生かし、表現してみることで学んだ言葉の力が必要な場面で活用できるようにと考える。そのようにして、自分の学びを実感することは、学習したことへの自信にもつながる。また、このような経験の積み重ねが学び続けるために必要な言葉の力を育んでいくことになると考えたからである。

3. 研究の概要

研究主題にせまるために、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 丁寧な音読

- 一斉読み
- グループ読み
- 内容を読み取る前と後での音読

視点② 「聞き合い」での深い学び

- 読み取ったことや考えたことを交流する場を設定
- 場の設定の工夫
- 主発問の工夫
- ワークシートや思考ツールなどの指導材の工夫

視点③ 学習意欲の向上を図る言語活動の工夫

- 児童の興味・関心を引きつけられるような言語活動
- 教材文を読むことで得た技能を活用し、表現活動へとつなげる
- 1時間の学習の振り返り

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 一斉読みやグループ読みなど各学年の実態に応じた音読形式を用いたことで、児童の読みを深めることができた。また、学習の最後に振り返りの音読を行うことで、内容を読み取る前と後での読みの違いを感じとることができた。
- グループでの学習を多く取り入れることで、自分の考えを表現するのが苦手な児童もグループの友達と考えを聞き合うことで、意欲的に学習に取り組むことができた。また、自分の考えを友達に伝えることで、自分の意見に自信をもつことができた。
- 児童の興味・関心を高めるために、学習活動を工夫した。「音読劇発表会」、「登場人物に手紙を書こう」、「中心人物に手紙を書こう」、「ポップづくり」、「他の作品の紹介文を書こう」、「ビブリオバトル」、「ポップづくり」などの言語活動を設定することで、児童は意欲をもって活動に取り組むことができた。
- 言語活動で用いるモデルを児童に提示することで、児童が明確なゴールをもって学習に取り組むことができた。
- 単元に応じたワークシートの作成や壁面掲示などの教室環境を整えておくことで、児童の意欲を高め、考える際の手助けとなった。

(2) 今後の課題

- 「聞き合い活動」では、自分の意見を発表して、それを聞くだけの場になってしまった学年があった。友達と考えを伝え合うことで、自分の考えを深めたり広めたりするためには、主発問を工夫していく必要がある。
- 発問が多く主発問を考えたり、聞き合ったりする時間が十分に確保できない学年があった。発問を最小限に絞り、主発問に対して深く考える時間を十分に確保する必要があった。